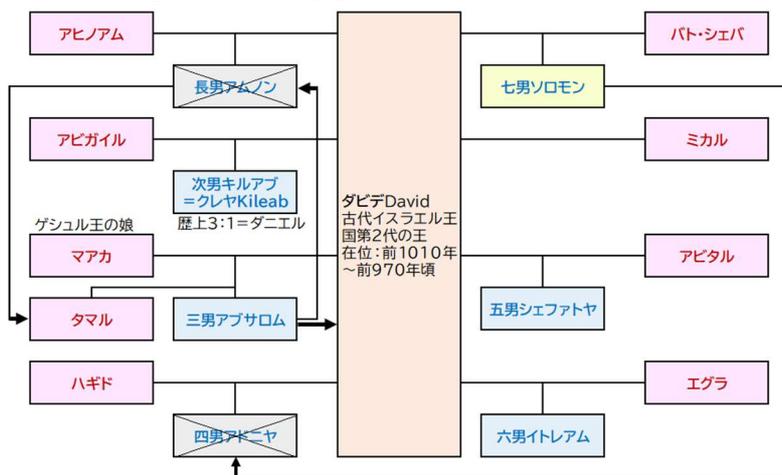


ダビデの妻と子供たち



☞ **バト・シェバ**はヘト人ウリヤの妻で、ダビデに見初められ不義の末にソロモンを産む。ダビデは彼女を慰め、王妃として重んじ、後にソロモンの母として王位継承や政治にも深く関与した。

☞ **ソロモン**はダビデ王とバト・シェバの子としてエルサレムで生まれた（聖書の系図順では七男、サム下 5:13~14）。父ダビデの跡を継ぎ、イスラエルの王となった際、神の知恵と洞察力を授かり、民を公正に治めた。彼は神殿や王宮の建築を完成させ、国内に秩序と平和をもたらすと同時に、国際的にも交易や条約を通して繁栄を築いた。ソロモンの治世は富と知恵で知られ、

諸外国の王や使節も彼の知恵に耳を傾けた。しかし、その晩年は、多くの異邦の妻（列上 11:1~2）に心を奪われ、偶像礼拝に傾いたため、主の道から離れた。これにより王国分裂が告げられ、彼の栄華は霊的衰退の陰を帯びることとなった。

☞ **アヒノアム**はイズレエル出身の女性（サム上 25:43）で、ダビデが流浪時代に迎えた妻の一人（同 25:43）。アビガイルと共に行動し（同 25:42~43、27:3）、ヘブロンでは長男アムノンを産んだ（サム下 3:2）。

☞ **アムノン**はダビデの長男。妹タマルへの欲情に支配され、策略を用いて彼女を辱めた結果、激しい憎しみを受ける。二年後、復讐を決意した弟アブサロムにより殺害され、王家に深い悲劇をもたらした。

☞ **アビガイル**は、愚かで悪行の多い夫ナバルに代わり、知恵と謙遜をもってダビデの怒りを鎮め、流血を防いだ女性（サム上 25章）。後にダビデの妻となり、子キルアブ（歴上 3:1 = ダニエル）とアマサの母となった。

☞ **マアカ**はダビデの三男アブサロムの母であり、王族や有力者の妻として登場。列王記上、歴代誌下に登場する宗教的影響力を持つマアカ（偶像アシェラに關与）は、ダビデの妻マアカとは別人である。

☞ **アブサロム**はダビデの三男で、容姿端麗な王子であった。妹タマルを辱めた兄アムノンを殺害し、後に民心を巧みに掌握して父に反逆する。王位を狙うが内乱で敗れ、逃走中に殺され、ダビデに深い悲嘆を残した（サム下 3:3、1:1~14、28~29、14:25~26、15:1~6、10~12、18:6~8、9~15、19:1[口語訳 18:33]）。

☞ **キルアブ（クレヤ） Kileab**はダビデの次男で、母はカルメル人ナバルの妻アビガイルである。ヘブロンで生まれたダビデの息子の一人として系譜に記されるが、聖書には彼の生涯や行動についての詳細はなく、王家の子として名のみが伝えられている。

☞ **ミカル**はサウルの娘（サム上 14:49）でダビデの最初の妻。ダビデを愛したが、後に別の者に嫁がされ（サム下 3:14~16）、ダビデに戻された。神の箱の運搬を軽蔑し（同 6:16他）、子を持たず死んだ。

☞ **アビタル**はダビデの妻で、第五子シェファトヤの母である。系譜記事にのみ登場するが、ヘブロン時代における王家の拡大と、部族的結びつきを示す存在として位置づけられる。

☞ **シェファトヤ**はダビデの五男（母アビタル）で、イスラエルの指導者や王族の子孫としても名が登場する人物である。歴代誌では部族の長や王ヨシャファトの子として複数のシェファトヤが記され、指導者・王族系統に関わる重要な人物群に含まれる。

☞ **エグラ**はダビデの妻で、六男イトレアムの母である。ヘブロンで生まれたダビデの子らの系譜に名前が記されるが、聖書では彼女自身の行動や性格についての詳細は記されておらず、王家の妻の一人として紹介されている。

☞ **イトレアム**はダビデの六男で、母はダビデの妻エグラである。ヘブロンで生まれた王子の一人として系譜に名を連ねるが、聖書には生涯や行動の詳細な記述はなく、静かな存在として伝えられている。

☞ **タマル**はダビデの娘で美しく、兄アムノンに辱められた。絶望の中、兄アブサロムのもとに身を寄せ、アブサロムは妹を守れず憎悪した。家族内の悲劇の象徴でもある。

☞ **ハギト**はダビデの妻で、四男アドニヤの母である。アドニヤは王位を狙い、戦車や護衛兵を整えたが、母バト・シェバや預言者ナタンにより阻止され、最終的にソロモンの時代にその野心は制される。

☞ **アドニヤ**はダビデの四男で、母はハギトである。父の晩年に自ら王位を宣言し、ヨアブや祭司アビアタルの支持を得たが、神の選びはソロモンにあり、企ては退けられ、最終的に王権を失った。